

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6(5)	身体拘束を行っている方が数名いるが、拘束を開始してから長い日数経過している事例がある。身体拘束に関して職員が勉強する機会がなく、どういったことが拘束になるのか知識が不十分だった可能性がある。	職員全員が身体拘束に対する正しい知識をもてるようにする。現在拘束を行っている方について、解除に向けた取り組みをする。	職員会議にて身体拘束の勉強会を開き、周知徹底する。身体拘束解除に向けて、丁寧に記録を重ね、必要性の有無を明確にしていく。	3ヶ月
2	13	職員を育てる取り組み・・・職員を育てる、ということに十分な環境がなく、新人が不安に感じることがあった。	介護の方法に関する適切な指導ができるよう、すべての職員が技術を磨く。	研修に参加した職員は、他の職員に内容を伝え、互いに役立つ情報を共有していく。どの職員が現場に入っても必要なケアが行われるよう、その入居者にあった方法を統一していく。	10ヶ月
3	47	服薬支援・・・薬に関してヒヤリハットがあり、責任を持って介助するよう分担を決めたが、服薬の方法についてスタッフによってバラツキがあった。	一人ひとりの服用している薬の効果や副作用について全職員が把握する。その方にあった服薬の方法を身につける。	Ns・ケアマネジャーを中心に、薬の効果や副作用を周知する。職員も、各自薬の説明を確認する。服薬の方法は、申し送りの中でうまくいった方法などを伝え、統一する。	6ヶ月
4	40(5)	日常的な外出支援・・・グループホーム周辺を散歩することはあるが、まだまだ外へ出る機会が少ない。外へ出たいと思っている利用者がある。	外へ出たい時、出られるように努める。たまにご家族と外出し、楽しい時間を過ごしていただく。	外へ出たい気持ちの時は付き添えるよう、スタッフが協力する。穏やかな季節には、ご家族と一緒に外食や買い物に出かける機会を作る。	10ヶ月
5	40(15)	食事を楽しむことのできる支援・・・食事は3食とも病院の厨房から運ばれており、目の前で調理をすることはしていない。外食に行く機会が少ない。	利用者に自分たちで作る喜びを感じていただく。いつもと違う場所・雰囲気での食事を楽しんでいただく。	月に数回でも、グループホーム内でおやつなどを作ってみる。利用者の好みの店に外食に行ってみる。	8ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。